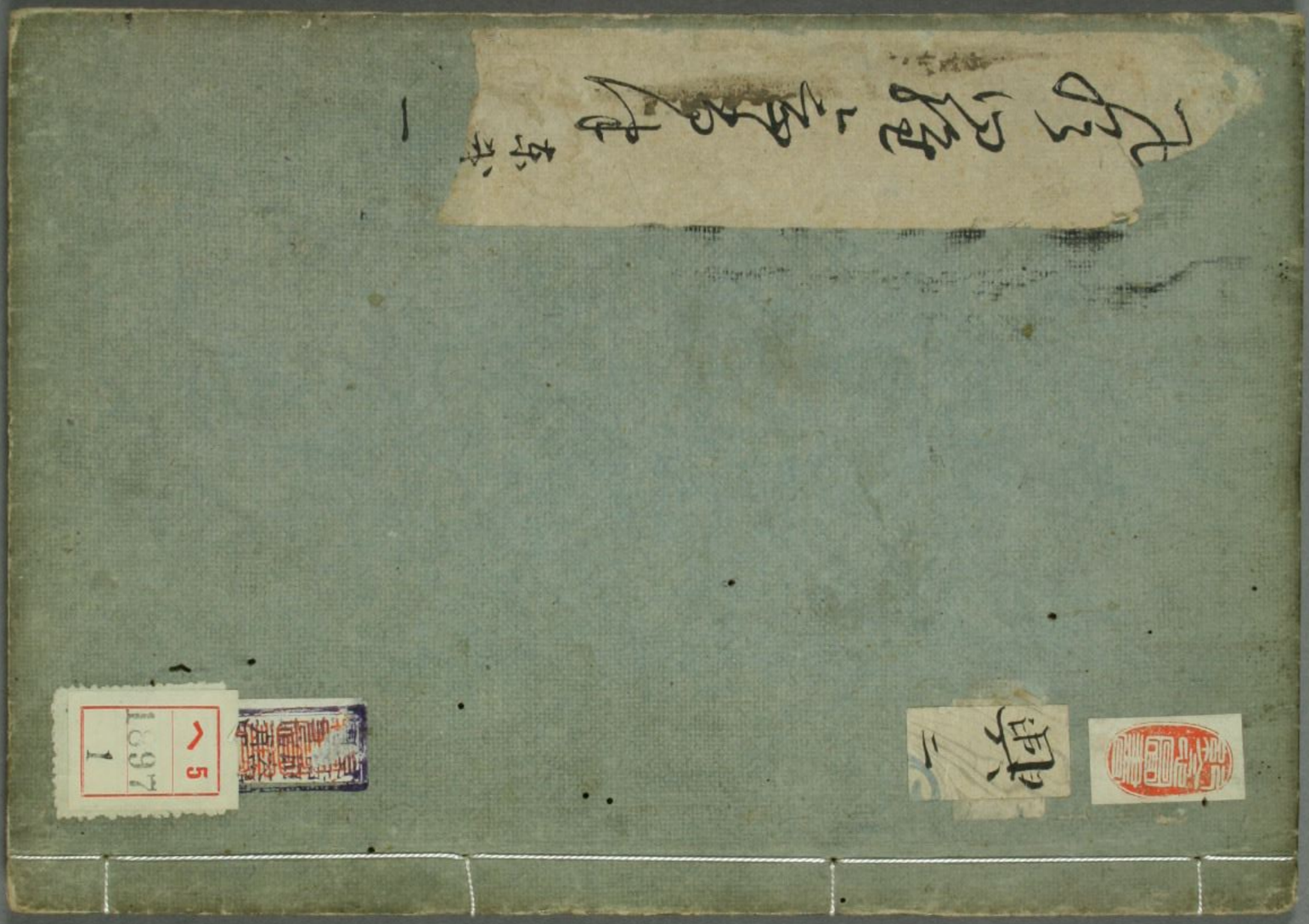
KODAK Gray Scale
LICENSED PRODUCT
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



蘿齋文庫

歌仙行

芭蕉翁

秋十とせ却て江戸をさす故々　曉堂
あまの川とゝろみ月をゆく先は　白雄
雁乃なき風乃芦はゝ見え初て　巨計
松あゝくと伶人を家　此君
くゝ戸に車つけゝる新あゝ夢　榮路
言れくつみし〻ゑをのほと

云なふ是ぞ羅刹岩ぞらへ　看之

代官とゆ〻蓆まゝゆ　花耕

移織る業を〻志〻兩の目へ　如貝

樗〻ちゝけ意や亀〻つあ　雄

拙思の署もたれよと撞もなま　臺

ぬゝゝ〻ぞ赤乃海かのうなり　君

はこ〻ゆや苧根の貫ふくゝ　計

袋拍わゝく敷親ちるう秋　之

亡もゆ〻沾ち彼月ぬ仏ち　浜

馬もかゝ〻ゝ世の駿まちる　水鶏

生秋か敷山色ぞ冷しや　大来

かまくも敷日にもゆる葛ぬ芽　千鳥

学ぞ苧くゝまくむ酒書て　耕

田中をかへ〻ふ矢木の市人　貝

素意ま丘ぞ伊廟乃意仏義　義

朽葉う下ぞ亀志ゆうなる　蓋

日和ふによりて枕思ふ事をもま
改車の蔭とかからぬ秋風　雄
麻売ハ青の光りを盆の門　来
さゝてつまゝて数を掾月　烏
寄いりを瘧をおとゝ水浴て　計
蟬乃めつゝ子松葉こほる　君
くれいゝく梭山の火串たてゆり　浜
よゝ切し寄乃おのれわひしく　之
　　耕

太刀の結乃紫さゝへて抱思ひ　貝
女　掉さん　舟あハれなり　雄
うちとを岩湾の浦乃なをいて　来
麦のかまりに紙子の衣乃　鶉
花を訪ふ屋よりの盃乃山ゝみ　計
波居に涼ん　あの海を　執筆

右

春秋庵連

世やきのかき

芭蕉翁

元世我世ぞ〳〵て盥に雨と夕ばゝ　曉臺

月為とほし〳〵惜を〳〵れ　重厚

元ゐほし〳〵蜂の巣とやゐ〳〵ぬん　成美

廻番かゝる　鯉躍なり

四阿の山海なり〳〵に　水驛　臺

か〳〵と　ぶさ〳〵　極の末〳〵に　亭

ぶらぶし仏供物をとる幣振て　義
矢しを惜し衣をあふらん　臺
仏事は茂しかまなる風情をや　厚
牛も月さはぬ演の波音　義
おのりと志てや賊の寄はん　臺
連歌おりて二人酒のむ　厚
月ちる流笠ふる弼まつ夏　義
嶽を奥ぞ乃神ゐ杉ふけ　臺

穴こり蛇をはたくく眺居て　厚
紙布ゐ糊ひく夕日よ行　義
ぶ先ら春に之春たより社雛　臺
こ也しも死なん七十乃糸　厚
夜を猟百首ゐ意を詠ふり　臺
ゐ賣まても君とゝぬの風　英
馬艚ゐ水の祭を用るらゝゐ　厚
いもの毛むしる十あこらへ　臺

附木つくぬしえのそつし住すく　義
るる琉球島乃人うを重てり　厚
葬く注葬をおとろ　墨
かゝひゝ青葉山の雨　義
伎籙わけうとなてぬしえ　厚
粉引女・ゝこと大きいちき　墨
旅骨柳のトサうつえ様の月　義
律吹おく新城川の秋　厚

いせの御乃まねひ矢蔦のむすひ松　墨
盃ひうへ給城このむ　なす紫　義
伊乃ちゝ不淨とよける雪と姪　厚
あしゝ新月さ千仭乃滝　壽
花義て里ハ語雪白の音　英
ちゝ乃りへを立てむ友　厚

右

俊明菴連

芭蕉翁

大せう桜樹で先ゑくむ萩の二葉ふ　曉臺

桃花ゆれ手を屋ハ法たちく主　成義

里かくれ水ふ沼治の名ゑ月て　吟江

矣ゑ迄ゆ雨乃ゆふく秋　浙江

ものい〳〵文月ゑてむきてゆびとち　英

あ〳〵〳〵　秋きき　なり

林さな梅の香おつる家乃色　臺
伊賀を志ぬふ伶人の書　術
をりく〳〵はまみ僧くぬむ仏　吟
あるあのなく狩里の重ふ足　臺
からくさを子をくむ楓峠まとむ　英
炮烙煙うゝ禅耳かふく　吟
冷猿の涙赤をかめんなほるこ　術
萩堂の記乃筆をとゝはや　英

月の宮扇に鱒をすくひ物　臺
さゝつき二つまはれおとゝの　術
雨なり宮ずり後乃迷さ長　吟
書つくくとゝ猪をおゝめて　臺
かけ海ふや奈良の墨ゝ同元　英
七父ゝ乳く人たつまゝり　吟
茶志とゝ西法小俗ゝちぬして　術
鴨の物ね書ゝ多か海川　英

咲の〳〵新本風よ独り舟の茶の湯先　壽

なれよく迷し〳〵力さ〳〵佛く　淑

かく〳〵の屋も別おほく赤迷れ　吟

風雅をうしなふ能登の西浦　壽

秋乃寒わけうに人を云なの弟　英

被〻新を和は宵月　吟

すき好穂ゑり方に吹をれて　淑

盗し〳〵牛の角を引まは　英

火ゑ燒て冬のかよほり志のひる　壽

佛乃弟乃埃いふせく　淑

ちやく〳〵と固の雀ゑめさ見付　吟

雪但藤ゑ宗鑑ゑ　壽

吸ゑ咽渇せ乃ゑを むしろ　英

松苗ゑ〻ゑ神ゑるゑせ　執筆

右

海の色連

元禄元の春　芭蕉翁

四合墨のそろはぬを見て活字

松を分らり手風寒む中　曉臺

素干海苔のうま拾ひ来て　白雄

ともしたくよりを勢ひ手ぶり　青羊

霄くに月もいさよひなれや　蓬壺

蓑の兄鶴（コノリ）衣を養さき　橋志

塀越の人奪家を秋乃月　鶴圖

いまや連歌の満るなり冬梨　東阿

梅熟してかのうれ匂ふ秋乃雨　伏亀

黒髪ねゝ[illegible]年月のほゝ　一羽

かゝれぬおもひを人のゆゝしつり　湖光

撞ハ元〻敷山ひゝきこゝ　文卿

うハふゝ船漕れり玄庫浦　羊

者ともなきゆゝ睡雪射よめよ　壺

寡閑ゝみち一時にたちあうり　志

由ゝ音ハいはこまの秋ゝ月　冨

鼓荒てあゝ〻ゝ揺ちりゝに　阿

くこやはゝこの二祭つむへく　亀

丙のあゝたちまちか茂のたゝり　杏

沓りゝく爺のいゝく世ゝぬゝ人　光

四蓋を佛乃ゝあにゝかへて　人

ちゝ休しゝく美を見しゝ　羊

秀意きらきをなくさむ孫別衣　壺
しとゆゆふ色霧のもみ紅　志
あかつき火のかりかそへも遠ふり　落
鍋煮おろせそ馬乃いなく　阿
木もいたも君まめさしし赤齢　亀
かれて書よれ愛蓮乃説　羽
たつ月にしれの戸たくゆの吉　光
世をもつうに酒醸す比　々

笠の霧岡めぐりして帰さや　羊
ふいとうかしま道の蓼原　壺
杜鵑毎まかけふ名せまて　志
紅白わけうに又雨とな数　光
さきくぬむらしの花ゆしは　々
みとりまわうま松のひとむら　執筆

右

足立弁連

四時之吟

湖雁

梅かをる山ふる雨
はし居る事

古庭の鶯ゆふ日
馬追の出ぬ夜をなくや蟲

はつ雪や
まつ深ふぬ松の色

春雨の奥あるあり乃節根哉　浙江
ゆき乃日や風しさいふ哉乃爆

春雨ハ木ゝ吟抜明かゝ春　吟江
子をつ鶯ゝ覓もの乃月哉

初摘日ハ仏ハ布なりて哉あるりぬ　吾從
仏布ゝ哉乃ゝ乃ふきぬゝ

らふはいゝ接抄おゝや梅の花　青李
かんこゝろ世ゝ居言葉奪

友減てゝもの乃おちくゝ畑の雁　方水
海辺哉あゝ辺の海や神ゝま

さみゝ仏や雲ゝ義を茶苏子　成義
恵泄煮る煮ゝ辺や演ハ義る居

○

みしゝ扨や枕別深め海かなを　南古

月新の翼まてさゝてゆすし　蕉雨

人も花千　にくしし風欲々涼　買雪

○

世嵐も多をゝゝやめ梅の花　亞提

地籠やも者の門もたゝひとり

こゝらへて多も林しなかゝしゝ　拾月多　北川

○

かつこうり空ゝのゆるゝや梅乃花　ちとせ　隣雀

一森入函を通して多鶯

ゆりゝへ新山海もなゝて蕉葉

蕉葉遠忌のゝんを

百年のゝとゝ玉虫ちゝ銭小ゝ　星ちゝ　箕十

玉虫かゝ化骨ハ海乃春大乃　嵐冠

衿千蕉てゝこゝ栗なり栗なり

○

新風やさゝうち中ゝ仮きふて　友巴
かゝをたむふさうす湖の春
月子湖ふて細江の孫をいくつゝ
潮ちき家ゝあそいんせ〜忘

玉泉

玉風子今中ゝかをとこ為長なる
合歓蔬て紫翠とひうふ小西哉
いゝ等て地を吹つる秋風ゝ
酒提てゝゝ苗ちなり雪の菴

かかけの日新ゝうりや夏乃原　晋里
百年乃柔枝ゝるし係ゝゝ　一路

志川ゝ子ゝ主の夜癖や春の雨　撫章（故亜菴）
○
紙子哀や姿も新乃多なゝ　陳石
義馬〜てゝとの義もゝ枯ゝ　湖旦

さみだれや道ふみて小夜衣　晋窗　湖十

○

蓮枝のとまりより明て絶却や　蔓布

焔の蕾　孤村子おこ敷ふ兵

絶却や侍門を叩く細の者　大草

雨二日旁の夕しめなりふる

○

春秋菴連

苔ふてもおもひきさてて山さくら　巨計

風の矣や西を行雲にはの紅葉

のかれはや川きあらはして苔の露

雲梅の苔つむすえのむしろ

雲の壁ふふ尚小仲の根さ小　此君

かとなる峠やぬのくま　移郭

椎拾ふ貪女のまぬやあり吹

川越て菜つくむ小春少

犬吠きあらしの岸波さとり　百舟

寒しくれちこ風てハ不の葉ちる　木鶏

秋のあハき拂ふよハ紀暴風ふき

も名おもひ営る素てとゆかれ　榮路

花萩て茂むつうやたらむしろ

並松て馬人かすむ磯辺ふき　看之

板崖やこか尚ふ椎ハ麻のゝめ

かきむ営のあるうゆなる軒月ふき　雄通

四何てなてしこそよく片月板

おろうきふち衣とおもふ　涅槃像　如貝

さみふしの筆て光る腕ふき

栄ふしせいふきはなし夜の雛　花耕

名糸ふ尚蚊て安ゝぬ板業ふ

立木枯ゝ山越てみる田つゝ　如柏

めゝう来るゝきけを警警おのふ

年拾る文のときしや原乃奪　春月

をしめとも落雪をとく市中ふ　古由

仏らうさんの山の松かゝハ　桑日

澄きてたちまちくるる千潟かな　佩年

いつを時雨の暮の春　麥語

片袖を月に濡らして草枕　笠田　文郷

篠屋とてこゝ泊まを春の雨

やゝ乱こゝや布うしてふるかゝる　粽田　蓬壺

夏板屋て夕雨おもゝ　梯葉

茶むしろの弁ちそよぎ蔭ふる　鶴圃

岡の戸をあけとにまなに清ゑ小

涼しさハ夕ゝまけて花柱哉　五鏡

洗ひしや格子ゝ妻乃格縄ゝ　湖光

こゝかゝやり方やゝ屋の柱ゝ　吹上　橋志

雲ハ山ゝ木ゝ家ゝ　鶯

鶯の種坊をうすくのかるゝ西　東阿

春乃夢酒ゝきゝを汚れゝ　板戸　琴考

二　墨をおほ[illegible]人乃雅うれ　屠蘇　青羊

海人なるや磯田の桂女髪おろき　茶砂　伏亀

いつまてそこかしの世子乃　蠡　一羽

楷乃ん裏を柳乃たよりうれ　扇町屋　兎庵

門ゑて櫂引もとしゆゑ屋ゑ

芹蕨その外のゑはむつらしや　吳雪

苏よ敷溝子　菱乃かゝ傾まゑ

かゑ足ゑき海ゑやとん月こよひ　棣花

夜の灯や雪子ゑそくむりの路

粕ゑゝむまぬゑこかゑ茶茸ゑ　白吐

ゝしひゑや梅の白いや山ゑゝ　映牧

山鳥哢て高ゑ[illegible]ゑ茶ゑの礼　烏暁

かけ詠ふや扶の西ゝ海濱やゝ　村山　桃酔

ふゑき池のゑゝゆゑゝや高乃月　女　仙衣

蕉葉さゝや焦失うたつり屑　岨暁

杜鵑　奪おとゝを扶乃篭系

必涙やちとり寄けを鈴鹿虹　足須　玉峨

うつせこのもぬけ涼しお木陰少　小谷　青牛

蓋かくれのつゆを吹相乃安乃載　慶山

落て地平咲しうやおりよ　高根　成車

ちとせ葉平梅の枝うたゝの菴れ　雲輔

酔て人概平日を見る眼のれ　木曽　洗耳

苔ゝゝかゝるとものハ皆さひし

かとまれ峰や溝平つ巻ゝき　千烏

ゝわしる橋ゝもたてれ日の巻き

わきれ行しゝ筋つゝ　巌杉　大警

滝乃仏涼しろハ荊蘇山　二鳳

春の日や茶のさくらハ下のたん　大来

初松魚みよりまるき客人哉

猪角力ちに入さの長こゝろ

かゝるさや傳祢氏の扶の祢　詣

山吹を咎る春雨かゝ江ぶ　白雄

いろつゝ乃弟衣を透江淵第哉

書林

江戸室町三丁目
京寺町松原上　須原屋市兵衛
辻井吉右衛門